

安保法意見書案を否決

県議会 傍聴席など抗議の中

県議会は九月定例会最終日の三十日、本会議で社民などが提出した安全保障関連法の廃止を求める意見書案を反対多数で否決した。同日に於いて各地で「憲法」で採決を見守った傍聴者からも怒号が飛び交うなど、騒然となった。

県議会閉会

「安保法廃止」の意見書否決

補正予算など27議案可決

県議会9月定例会は30日、本会議を再開し、県立公園などの小型無人機「ドローン」の使用規制に向けた条例改正案や、県版総合戦略を進める事業費を盛り込んだ9月補正予算案など27議案を可決、閉会した。社民などが提出した「『安全保障関連法』の施行中止、廃止を求める意見書」は賛成少数で否決された。

社民、民主、県民クラブ、共産が共同で提出した意見書では「安保関連法は戦争を放棄した平和国家日本のあり方を根本から変える」とし施行を中止、廃止を求めている。井加田まり氏（社民）は「国民の声を無視し、憲法違反が明らかでない安保関連法の強行採決は極めて遺憾」と提案理由を

るもので無責任極まりない」と反対した。火爪弘子氏（共産）の賛成討論、吉田勉氏（公明）の反対討論後の採決では、提出3党派と県民クラブの7人が賛成し、自民、公明、無所属の会などが反対し否決された。

傍聴席のやじで議場一時騒然
安保関連法の施行中止、廃止を求める意見書の審議中、同法に反対する市民団体メンバーらが傍聴席から自民、公明の討論に「憲法違反だ」などと声を上げた。横山栄議長が「静粛に」と繰り返し注意し、自民議員からはやじを続ける傍聴者の退場を求める声も上がり、一時騒然とした。

反する」などと主張。賛成討論で火爪弘子氏（共産）が「政府による立憲主義の破壊だ」と述べると、傍聴席に詰め掛けた二十人以上が「そうだ」の声や拍手で



県議会で提出された「『安全保障関連法』の施行中止を求める意見書」案への反対討論に手を組み「バツ」をつくる傍聴者＝議場で

賛意を示した。これに対し、山本徹氏（自民）が反対討論、一戦争を放棄した平和国家のあり方を根本から変えるとの指摘はまったく的外れだ」などと述べると、傍聴人から「本心か」や「憲法違反だ」のやじが相次いだ。

採決では、議会最大会派の自民と公明が反対に回り、賛成は社民と民主、県民クラブ、共産、県民クラブの計七人にとどまった。（豊田直也）



ていねいな説明
平和センター定期総会
10月30日(金)
PM 3:00
自治労会館